

令和7年度 獨協医科大学大学院医学研究科入学者選抜試験
専攻科目試験 内科学（消化器）

・意図

〔設問1〕

胆道悪性閉塞は、閉塞部位や切除の可否、そして予後等により内視鏡的ドレナージの戦略が変わる。この点について、しっかりと根拠を挙げて論理的に説明できるか否かを評価する。

〔設問2〕

ヘリコバクター・ピロリ除菌治療例の増加に伴い、その後の経過観察中に発見される胃癌はむしろ増加傾向にあるとされる。除菌によって胃癌そのものも組織学的に影響を受けることで、かえって診断が難しくなることもある。除菌後胃癌の臨床病理学的特徴についての理解を評価する。

〔設問3〕

慢性膵炎は、早期、代償期、非代償期で病態が異なり、各々治療法も異なる。また、非代償期では様々な合併症を併発する。各病期の病態の理解と、その病態に応じた治療の考え方への理解を評価する。

・解答

〔設問1〕

胆道悪性閉塞に対する内視鏡的ドレナージ戦略を、部位別および切除可能・不能に分けて、これまでに報告されている結果を踏まえて記されていれば採点対象。特に以下の項目について言及があれば加点。

- 1) 肝門部領域閉塞における片葉または両葉ドレナージの選択
- 2) ステンツの選択（材質：プラスチック・金属、ステンツ長）
- 3) ステンツの交換時期
- 4) ステンツ閉塞時の対応（reinterventionの方法等）
- 5) 経乳頭的ドレナージと経消化管的ドレナージの適応/非適応
- 6) 経皮的ドレナージの位置付け

[設問2]

ヘリコバクター・ピロリ除菌後に発生する胃癌の特徴と診断について、論理的に記載されていれば採点対象。特に以下の項目について言及があれば加点。

- 1) 除菌後胃癌の疫学
- 2) 除菌後胃癌のリスク因子
- 3) 除菌後胃癌の内視鏡的特徴（発見が難しい理由も含めて）
- 4) 除菌後胃癌の病理学的特徴
- 5) 除菌後のスクリーニング方法

[設問3]

慢性膵炎の病期（早期、代償期、非代償期）に分けて、病期毎の病態に応じた治療方法について論理的に記されていれば採点対象。特に以下の項目について言及があれば加点。

- 1) 各病期の病態の詳細
- 2) 病態毎の組織学的変化
- 3) 合併症に対する治療（発癌も含む）
- 4) 栄養療法
- 5) 疼痛対策